

図書館職員の仕事と日常

本学附属図書館には、情報サービス、資料サービス、雑誌情報、図書情報、総務という五つの係があり、図書館業務をおこなっています。職員の日頃の仕事のなかで印象深いエピソードをご紹介します。

☆印象に残っている仕事

今までの仕事のなかで一番達成感があったのは、西ヶ原時代から懸案だった 200 箱以上の吉上昭三氏旧蔵のポーランド語図書約 3200 冊！を、ポーランド語専攻の学生たちと 2 年がかりで整理したことです。共産主義時代に出版された文学書を中心とするものでしたが、絵本や児童書などには、表紙や挿絵の美しい図書がいくつもあり、学生たちも、思いがけない本の出現を楽しんでくれました（ポーランド語に限らず、本学図書館の図書整理には、学生を中心とした非常勤の方たちの力が大きい。感謝していますし、こうした人たちのなかから、図書館の仕事を目指す人がでてくれるとうれしいですね）。

また、フランス語書簡（スタンダール、サンド、フローベール、チャイコフスキー、サルトル）も印象に残っています。文学史・芸術史上の巨匠たちの直筆に触れることができたのは幸せ。文献を調べたり、文章を書いたりしたので勉強になりました。（図書情報係 係長）

文献学の重要性を実感するきっかけとなった、ジャイナ教関連文献はとても印象に残っています。インドの学術文献に関しては文献学の良い本があり、日本語に翻訳されているので、目録をとるのにとても助けられています。ヴィンテルニッツ、中野義照両先生には足を向けて寝られません。（図書情報係 主任）

☆あるレファレンスの光景

係員 利用者の方からの質問（レファレンス）で印象的だったものはありますか？

係長 都内のホテルから『お客様の母国語でケーキにハッピーバースデーのメッセージを書きたいのですが……』という電話や、近隣の一般市民の方からの『フォークダンスで使っている東欧の曲の歌詞を知りたい』という質問など、やっぱり外国語に関する質問が多いですね。

係員 2008 年度でもっとも印象深かったのは？

係長 某文学館からの、『昭和初期の前橋に“オゴニカ”という名の喫茶店がありましたが、“オゴニカ”とは何語でどんな意味でしょうか？』という質問。『ロシア語の赤い花の名称、“キンバイソウ”の一種で、キリル文字では“огоňек”（発音は“アガニョーク”）ではないか』という回答をしました。

（情報サービス係 係長）

* 当館ではレファレンス（参考調査）として、“特定のテーマについてどんな資料があるか”など、みなさんからのご相談に応じております。

2008 年貸出ランキング

2008 年の貸出ランキングから、ベスト 10 をご紹介します。やはり、と申し上げるべきでしょうか、語学や言語学、ナショナリズムに関する本が上位となりました。文学からは噂のベストセラーがランクイン！

順位	書名／著者名
①	想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行 ベネディクト・アンダーソン著 白石さや、白石隆訳
②	日本語のシンタクスと意味 第1巻 寺村秀夫著
③	日本語動詞のアスペクト 金田一春彦編
④	文化と帝国主義 第1巻 エドワード・W・サイード著 大橋洋一訳
⑤	日本語音声学入門 斎藤純男著
⑥	中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック 庵功雄ほか著
⑥	動詞意味論—言語と認知の接点 影山太郎著
⑥	日本語のシンタクスと意味 第2巻 寺村秀夫著
⑦	カラマーゾフの兄弟 第1巻 ドストエフスキー著 亀山郁夫訳
⑧	民族とナショナリズム アーネスト・ゲルナー著 加藤節監訳
⑨	トルコ近現代史—イスラム国家から国民国家へ 新井政美著
⑨	現代日本語動詞のアスペクトとテンス 国立国語研究所著
⑩	教師と学習者のための日本語文型辞典 グループ・ジャマシイ編著
⑩	第二言語習得研究の現在—これからの外国語教育への視点 小池生夫編集主幹 寺内正典、木下耕児、成田真澄編集
⑩	オリエンタリズム エドワード・W. サイード著 今沢紀子ほか訳

*興味のある資料が、図書館のどこにあるのか、配置場所を確認される場合は、
OPAC (<http://www-lib.tufs.ac.jp/opac/>) で検索してください。